

内水面支場 News !

かわら版 Contents

霞ヶ浦に外来種《コウライギギ》が定着したおそれ

■ アメリカナマズによく似た魚，その正体は“コウライギギ”

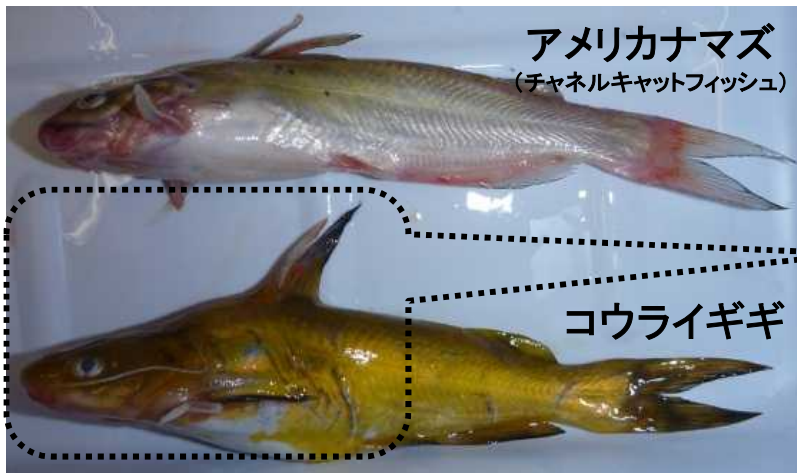


写真1 コウライギギとアメリカナマズ
採集月日：平成24年6月29日
採集場所：美浦村大須賀津地先（張網）



写真2 コウライギギ拡大
背びれの鋭いとげ
（胸びれのとげは採集時に欠損した）

平成23年10月以降，霞ヶ浦の各地で「黄色いアメリカナマズ」の発見が相次いだため，種の同定をしたところ，外来種の“コウライギギ(学名：*Pseudobagrus fulvidraco*)”であることが判明しました。

コウライギギは，形態がアメリカナマズ(チャネルキャットフィッシュ)とよく似ており，背びれと胸びれに鋭いとげを持っています。また，アメリカナマズより体色が黄色い特徴があります(写真1, 2)。

コウライギギは，元来東アジア(アムール川から韓国，中国南部)の淡水域に広く分布する種で，体長は最大で30cm，通常は20cm程度まで成長するとされています。

これまでに，コウライギギは霞ヶ浦で稚魚を含む複数個体が確認されていることから，霞ヶ浦に定着している可能性が高いと考えられます。

現在のところ，コウライギギが霞ヶ浦に入った経緯については不明であり，また，霞ヶ浦のコウライギギの生態にも不明な点が多いため，今後の動向を注視する必要があります。もしも，発見した場合には内水面支場への情報提供をお願いします。

なお，今回の詳細記事については，我が国の天然水域で初の確認であるとして学会誌“魚類学雑誌”に発表するとともに，内水面支場ホームページ“いばらき魚顔帳”に新稿を追加掲載しましたのでご参照下さい。

魚類学雑誌：荒山和則・松崎慎一郎・増子勝男・萩原富司・諸澤崇裕・加納光樹・渡辺勝敏(2012)霞ヶ浦における外来種コウライギギ(ナマズ目ギギ科)の採集記録と定着のおそれ. 59: 141-146.

いばらき魚顔帳：<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/naisuisi/gyoganchou/index.html>